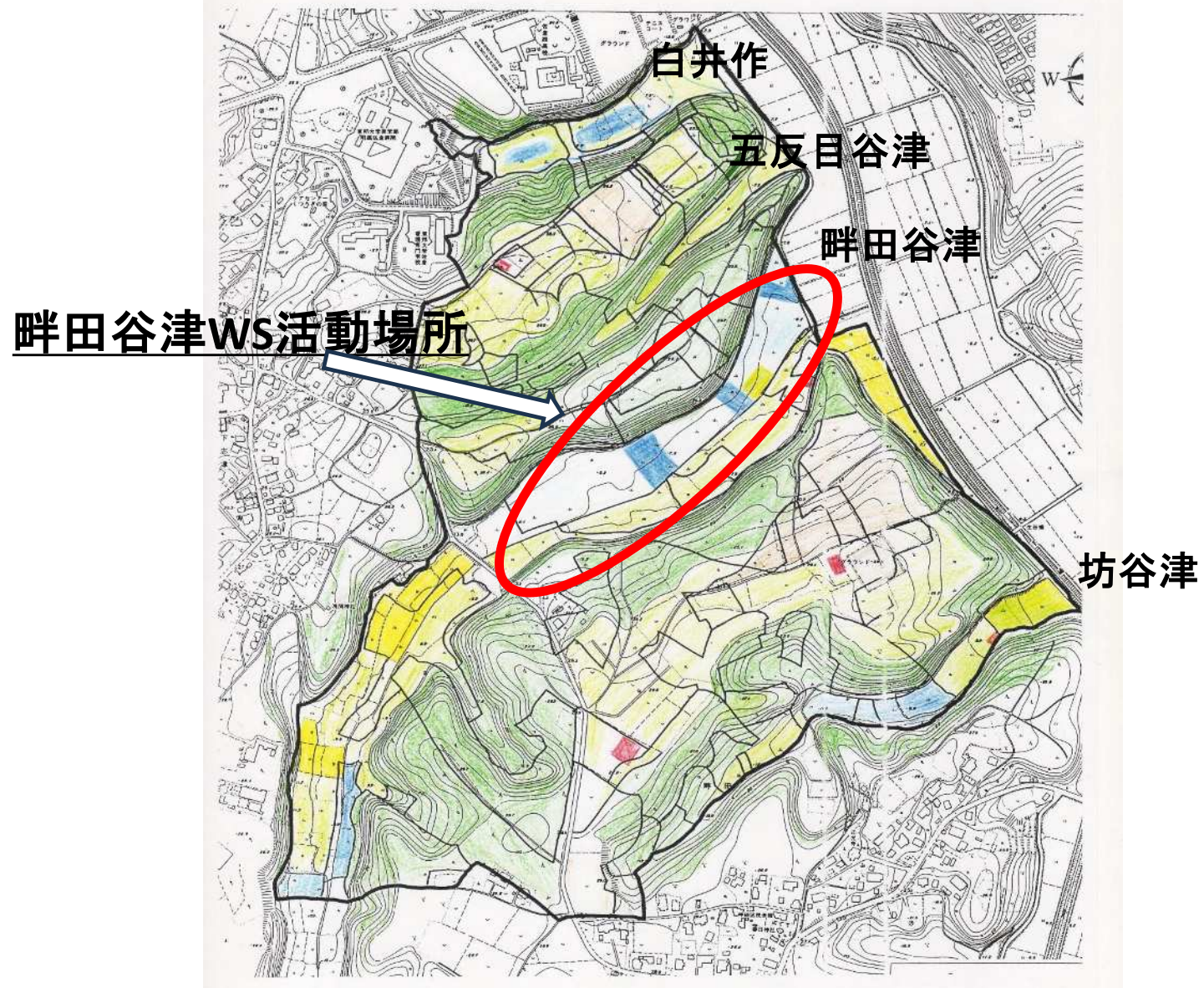


畔田谷津ワークショップの紹介

畔田谷津ワークショップ：美濃和信孝

佐倉里山自然公園



畔田谷津とはどういう場所？



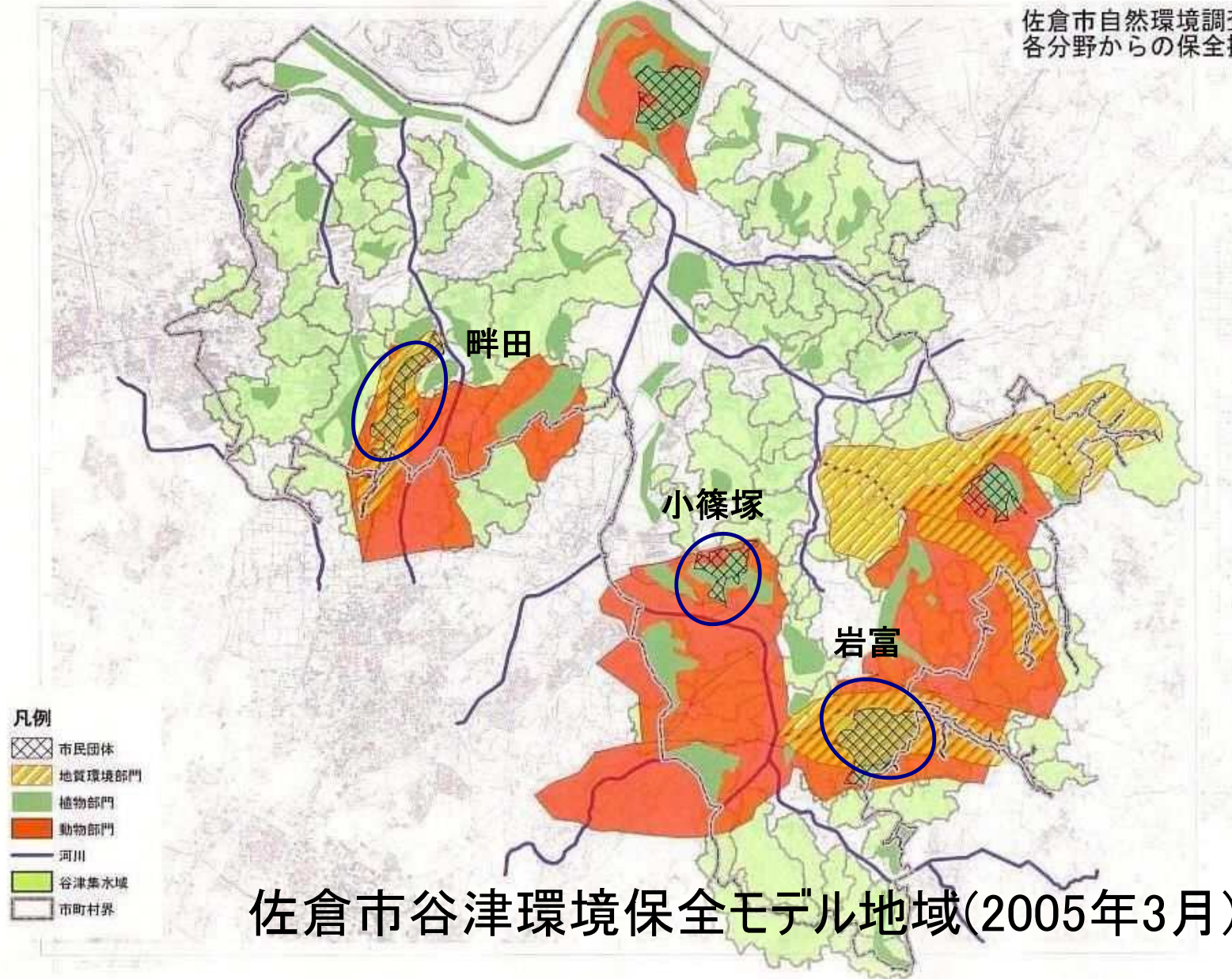
昔ながらの谷津田景観



湿田と段差のない土水路

佐倉市で唯一、圃場整備が為されていない昔ながらの谷津田が残っている場所だった。

佐倉市自然環境調査における
各分野からの保全提案地域



佐倉市谷津環境保全モデル地域(2005年3月)

佐倉市谷津環境保全指針(2006年)

- ①谷津景観の保全
- ②生物・生態系の保全
- ③水源の保全
- ④自然と文化の継承



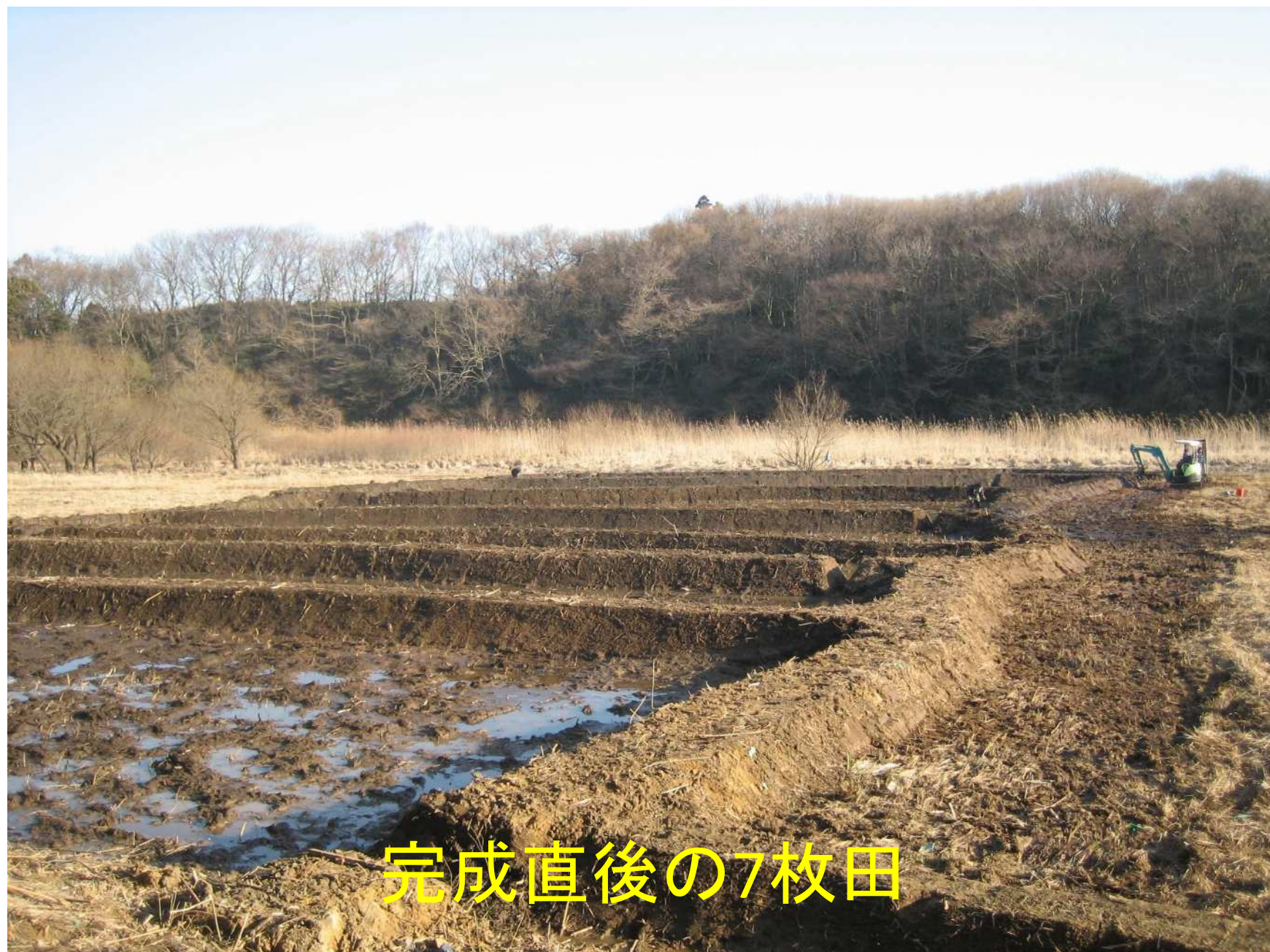
「サシバのふるさと畔田谷津」



2007年3月 3枚田・コナギ湿地の造成



2008年2月 4枚田・7枚田の造成



完成直後の7枚田

春になるとあっという間に草が生える



湿地の草抜き作業



生きもの田んぼ

この田んぼは、生きもの達のための田んぼです。

谷津田のいろいろな生きものが
すめるように、水張りや草刈り、
草抜きなどの管理をしています。

佐倉市環境保全課・畔田谷津ワークショップ

稲作班・田植え風景



順応的管理（PDCAを回す）

① 里山の自然に手を入れ、生物多様性を高めていく上では、「順応的管理」という手法をとる必要がある。

② 「順応的管理」とは、草刈等のアクションに対する効果を検証し、次のプランに生かしていくこと。

評価手法 ⇒ **生物調査**

③ 実は里山の管理では、これが最も重要で、成果が上がった場合、一番やりがいを感じる部分でもある。

ヒレタゴボウ抜き (2012年9月5日 S7、S8)





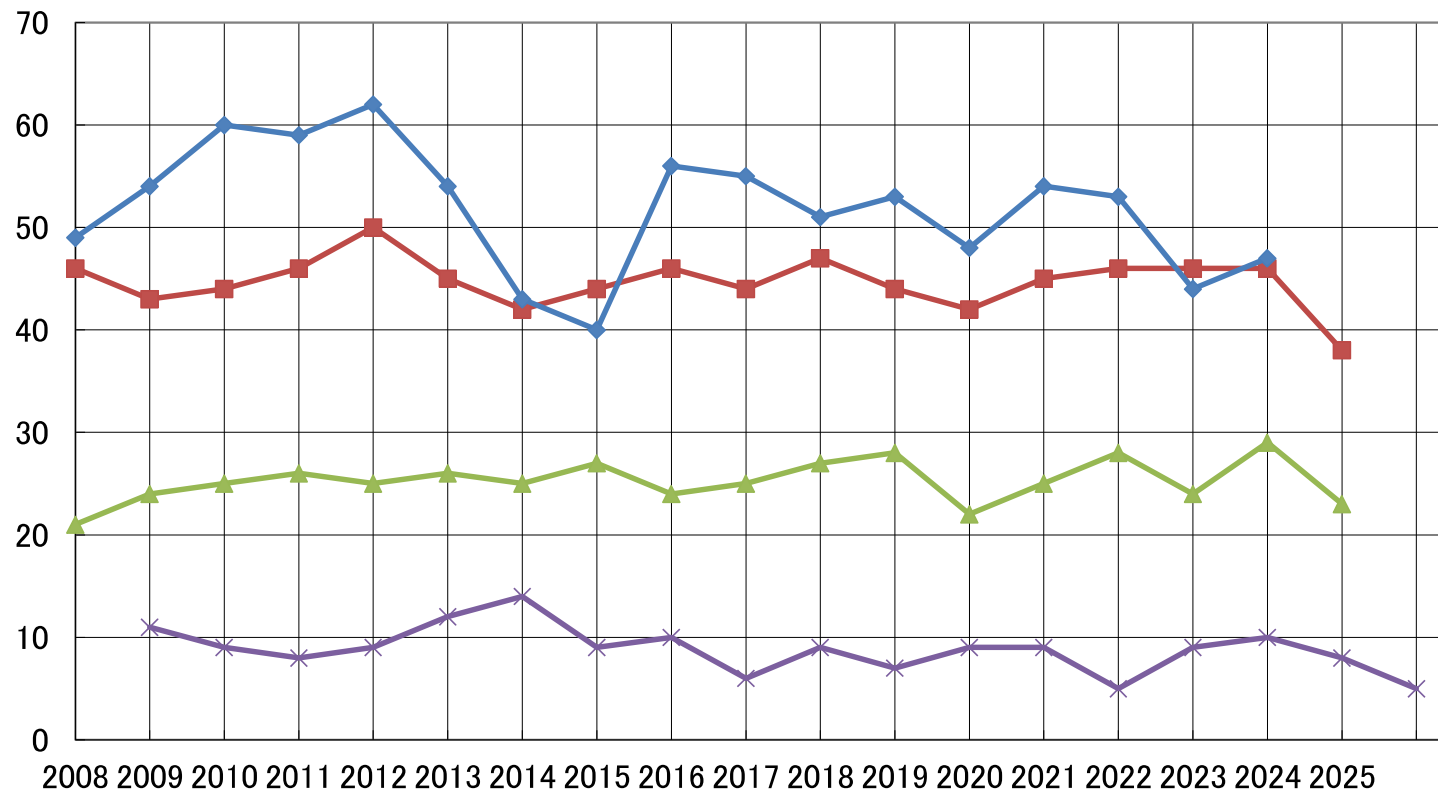
アイオオアカウキクサ除去(2016年6月4日S9-6,7)



生物調査班活動

現在7つの生物調査班活動があり、その調査結果を毎年調査報告書としてまとめている。

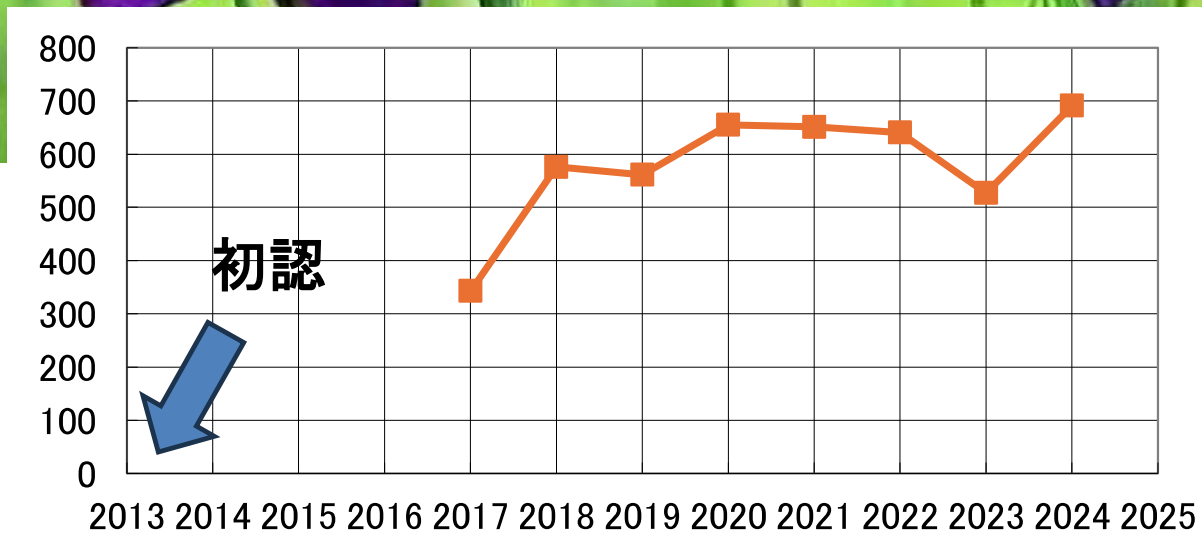
- ①植生
- (②植物標本)
- ③鳥類
- ④サシバ
- ⑤両生類
- ⑥魚道
- (⑦水生生物)
- ⑧チョウ・トンボ
- ⑨ヘイケボタル



■ チョウ類種数 ▲ トンボ類種数 ◆ 鳥類種数 ✕ 魚類種数

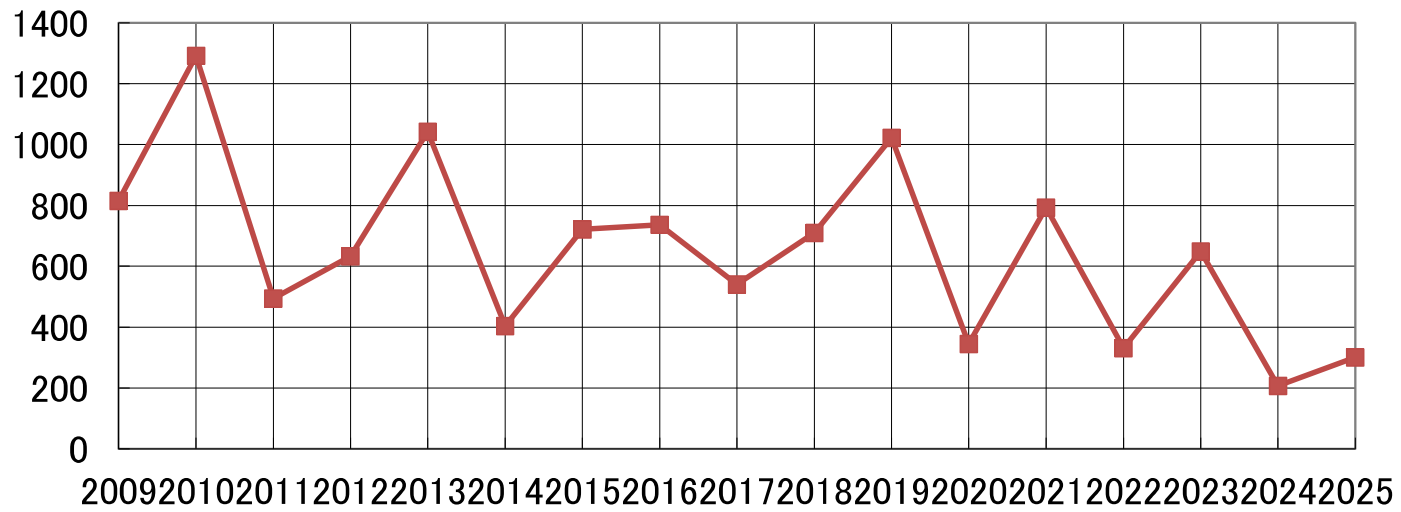
鳥類、魚類、トンボ、チョウの種数の経年変化

ノハナショウブ



ノハナショウブの花茎数の経年変化

ニホンアカガエル



ニホンアカガエル卵塊数の経年変化

アカガエルが生息できる条件

- ①早春、浅く水がたまっている場所があること。
- ②近くに林があること。

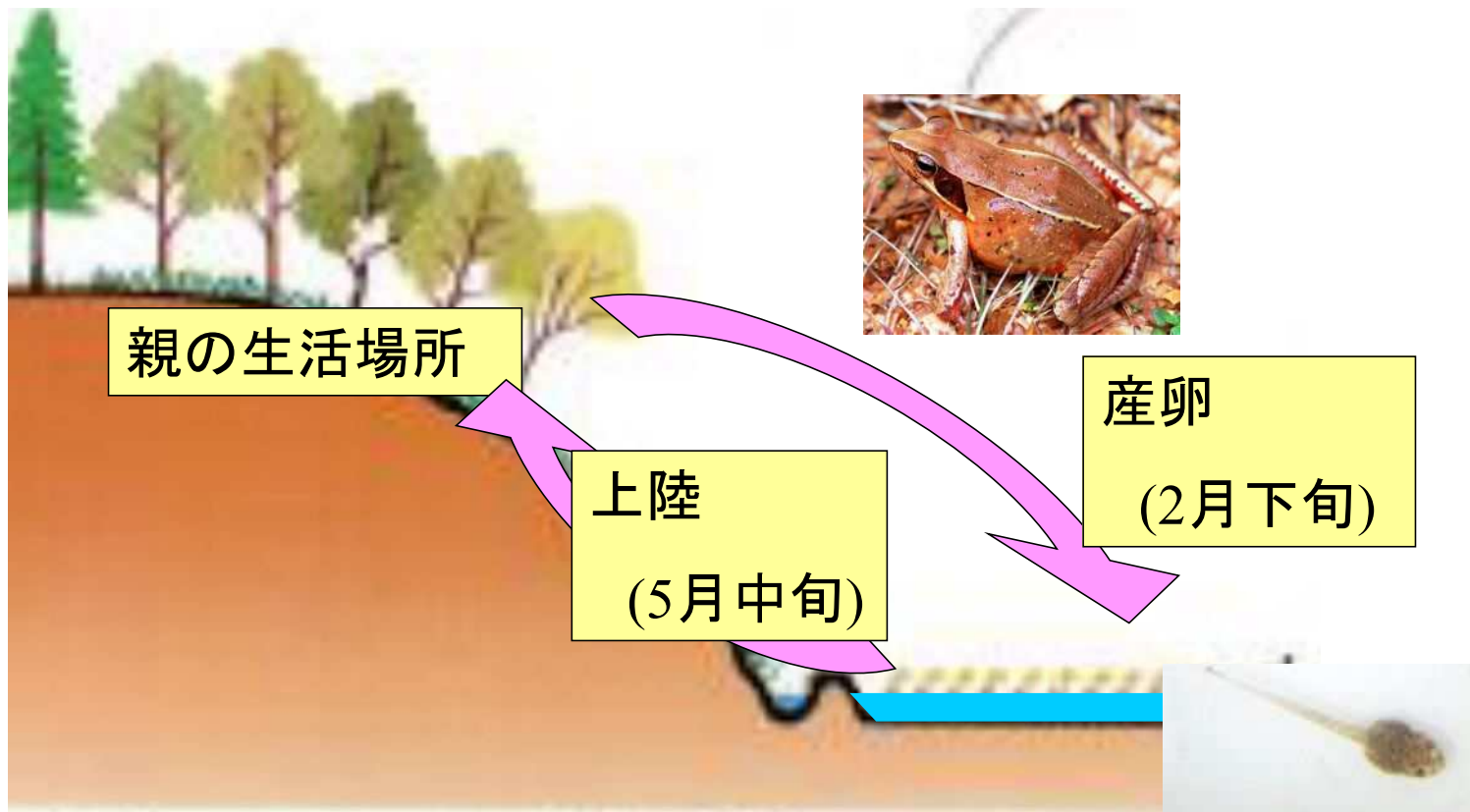


Fig. ニホンアカガエル卵塊数密度
(2011年)

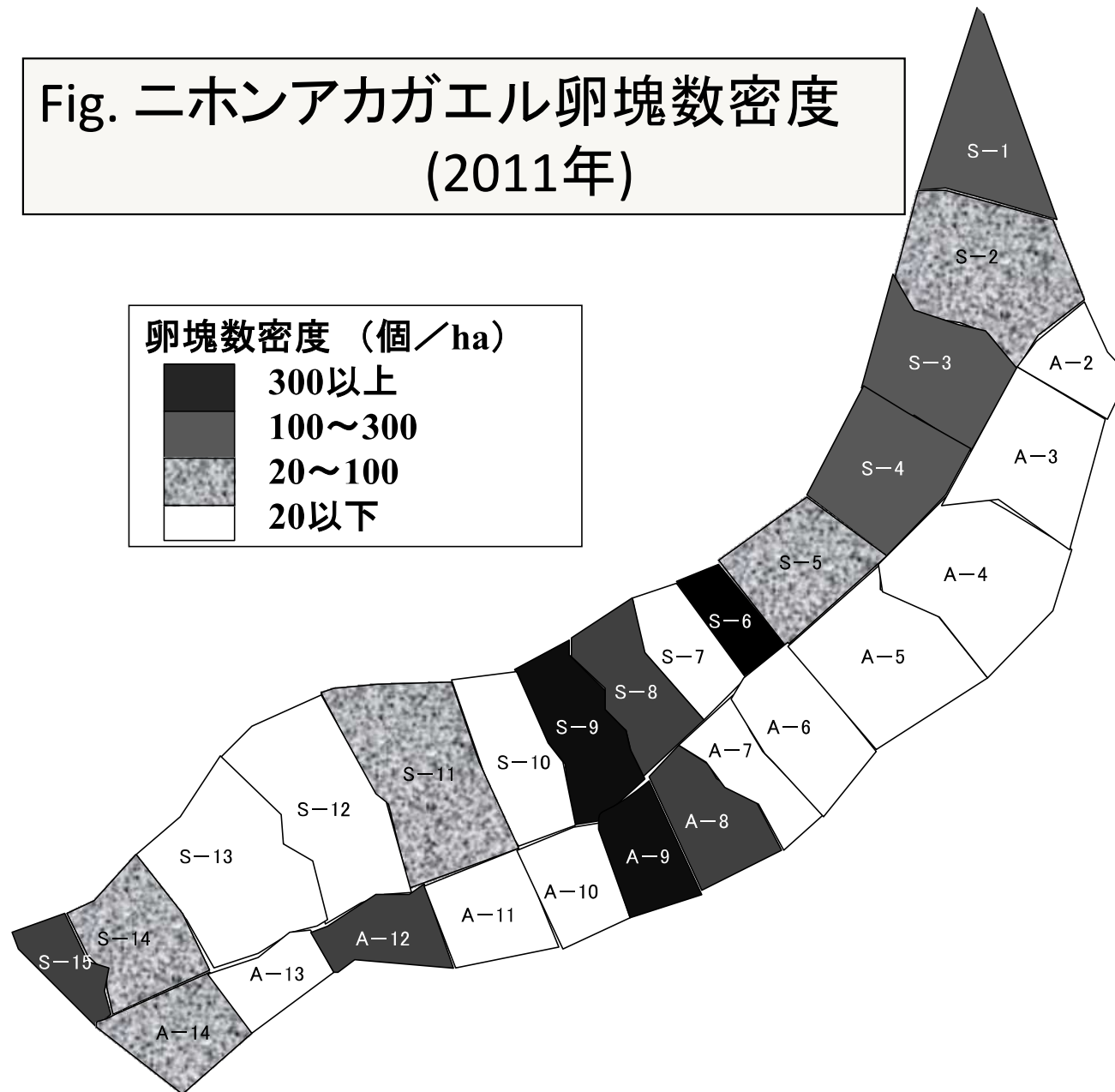
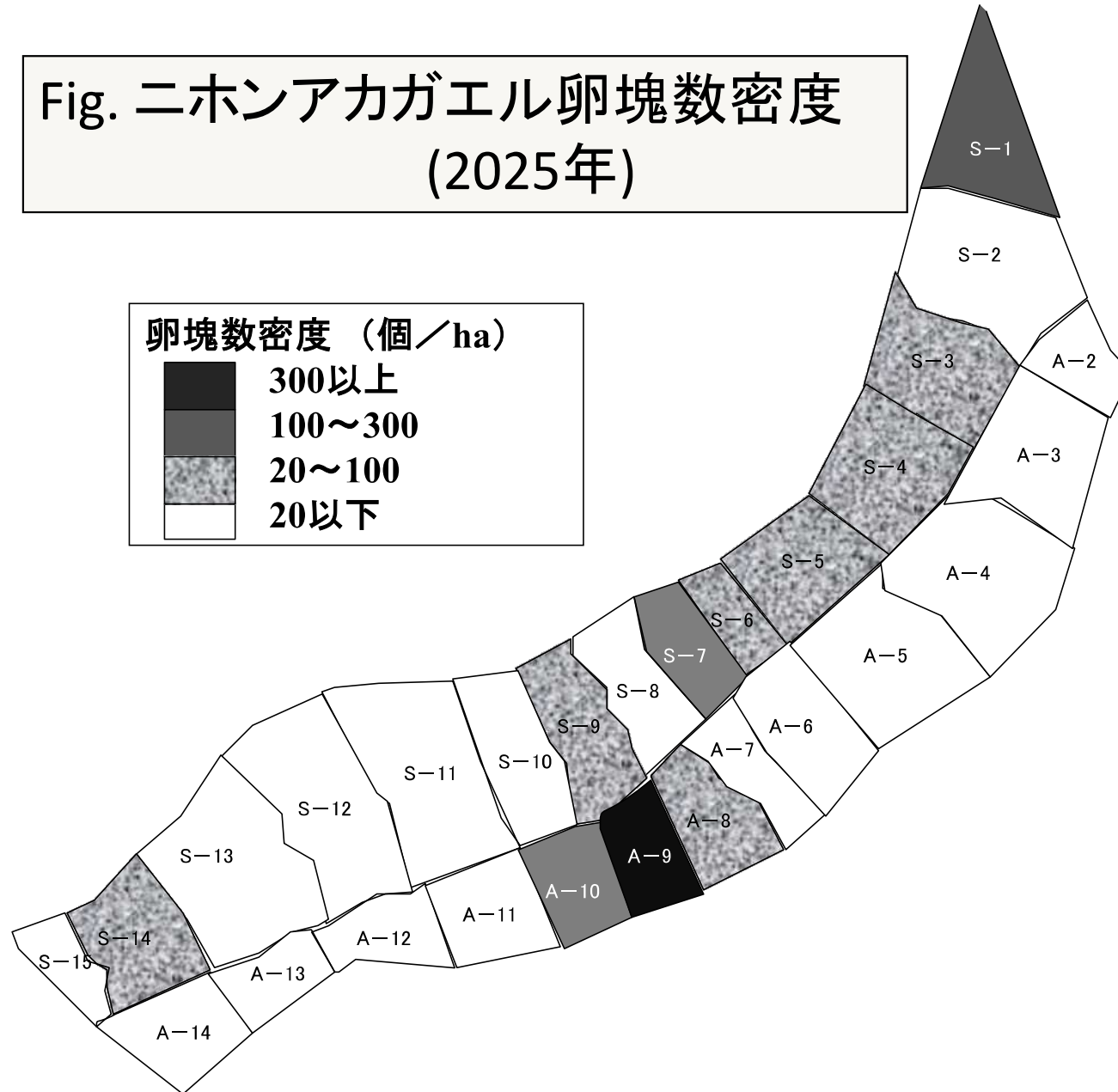
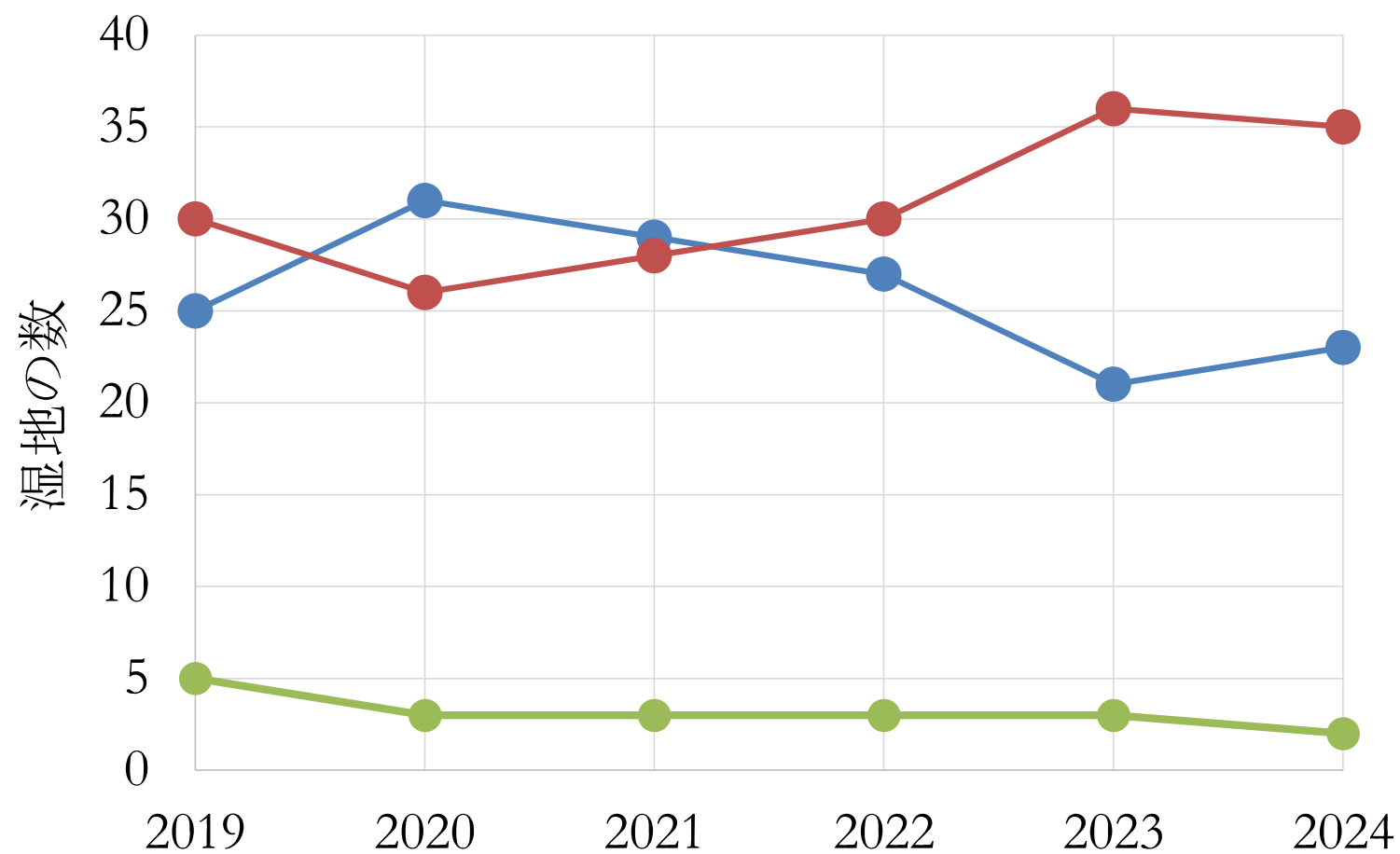


Fig. ニホンアカガエル卵塊数密度
(2025年)





●草抜き ●草刈り ●稲作

湿地の管理方法

図 地下水位と湿田

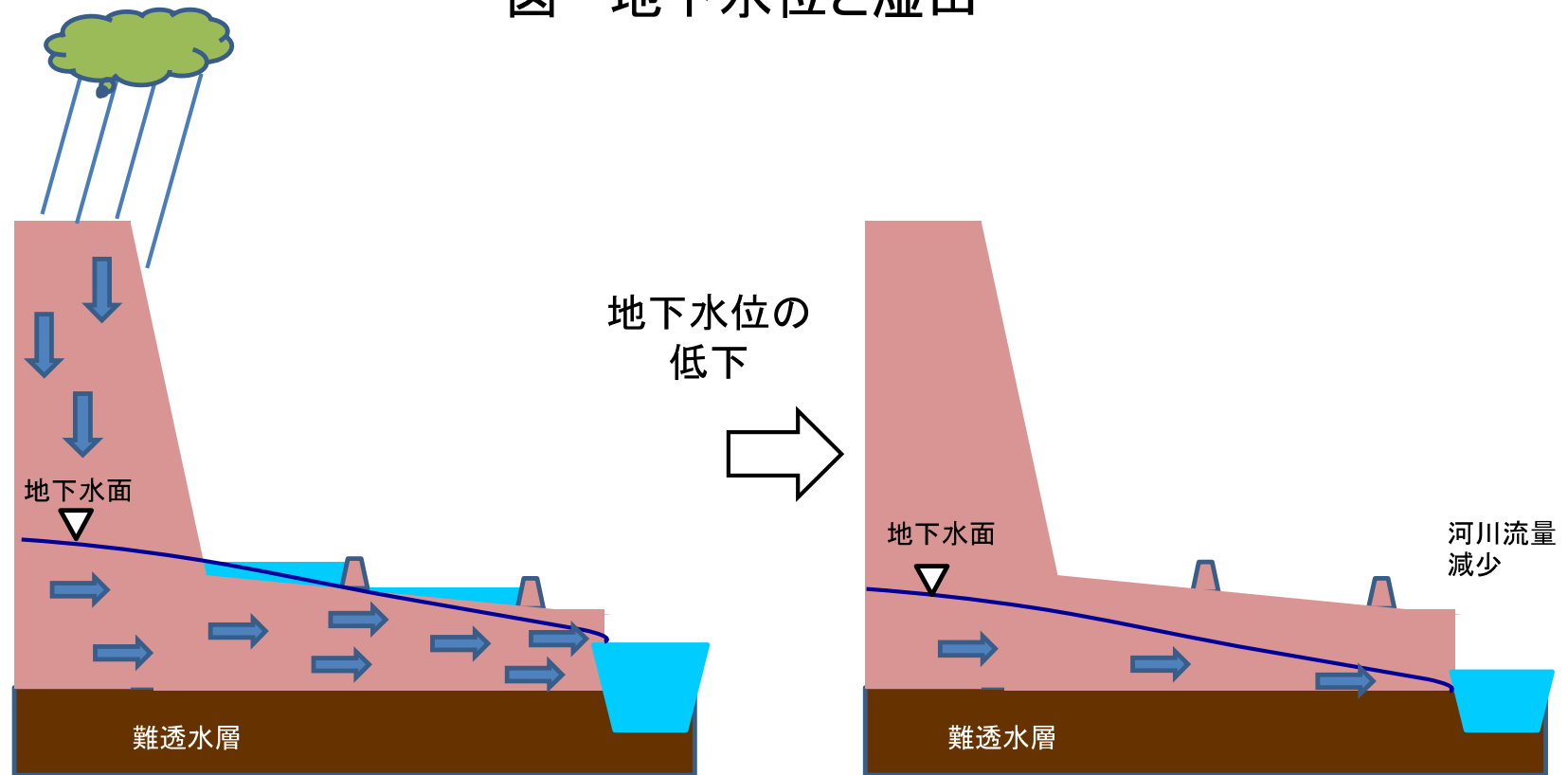
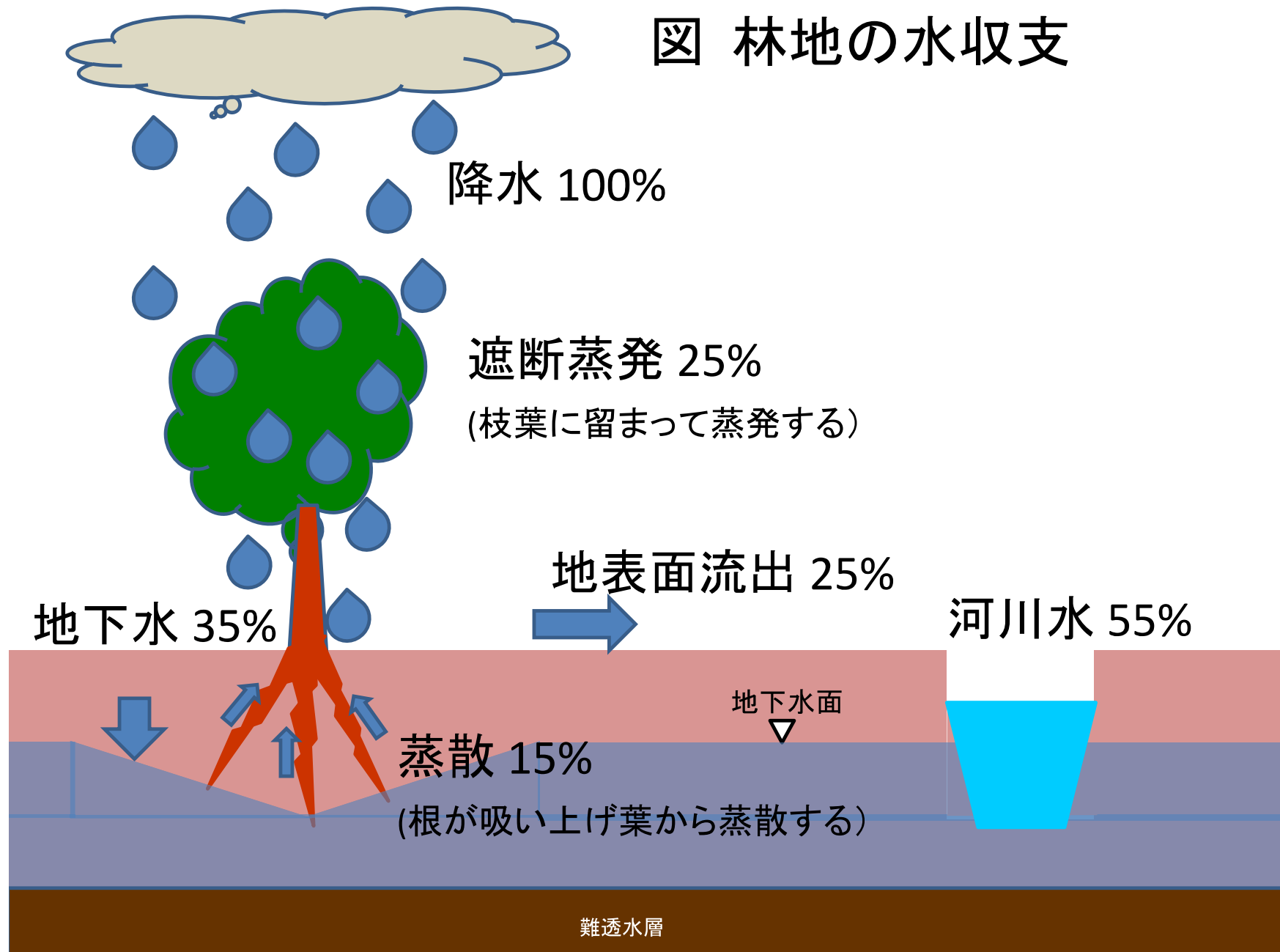
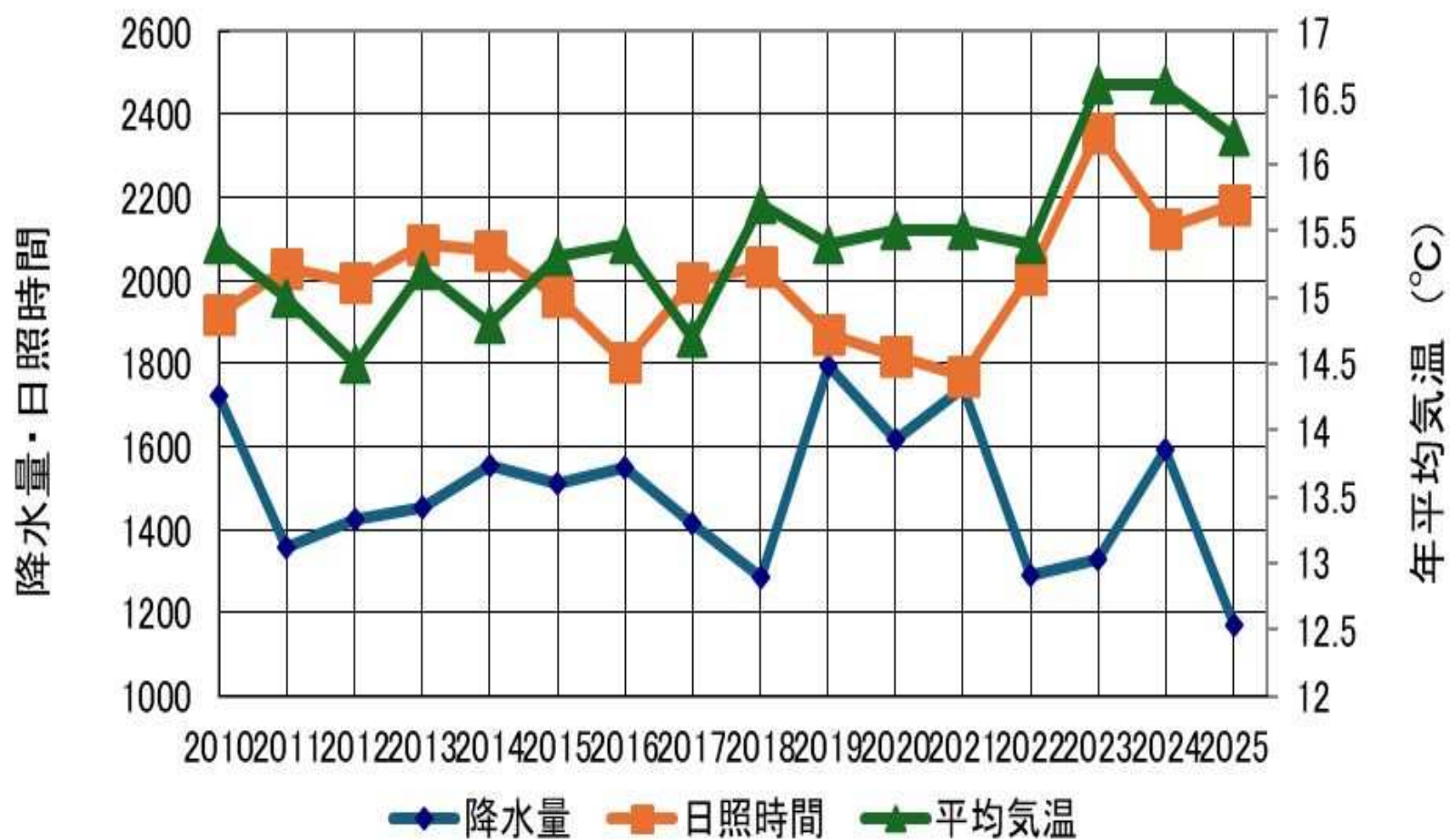
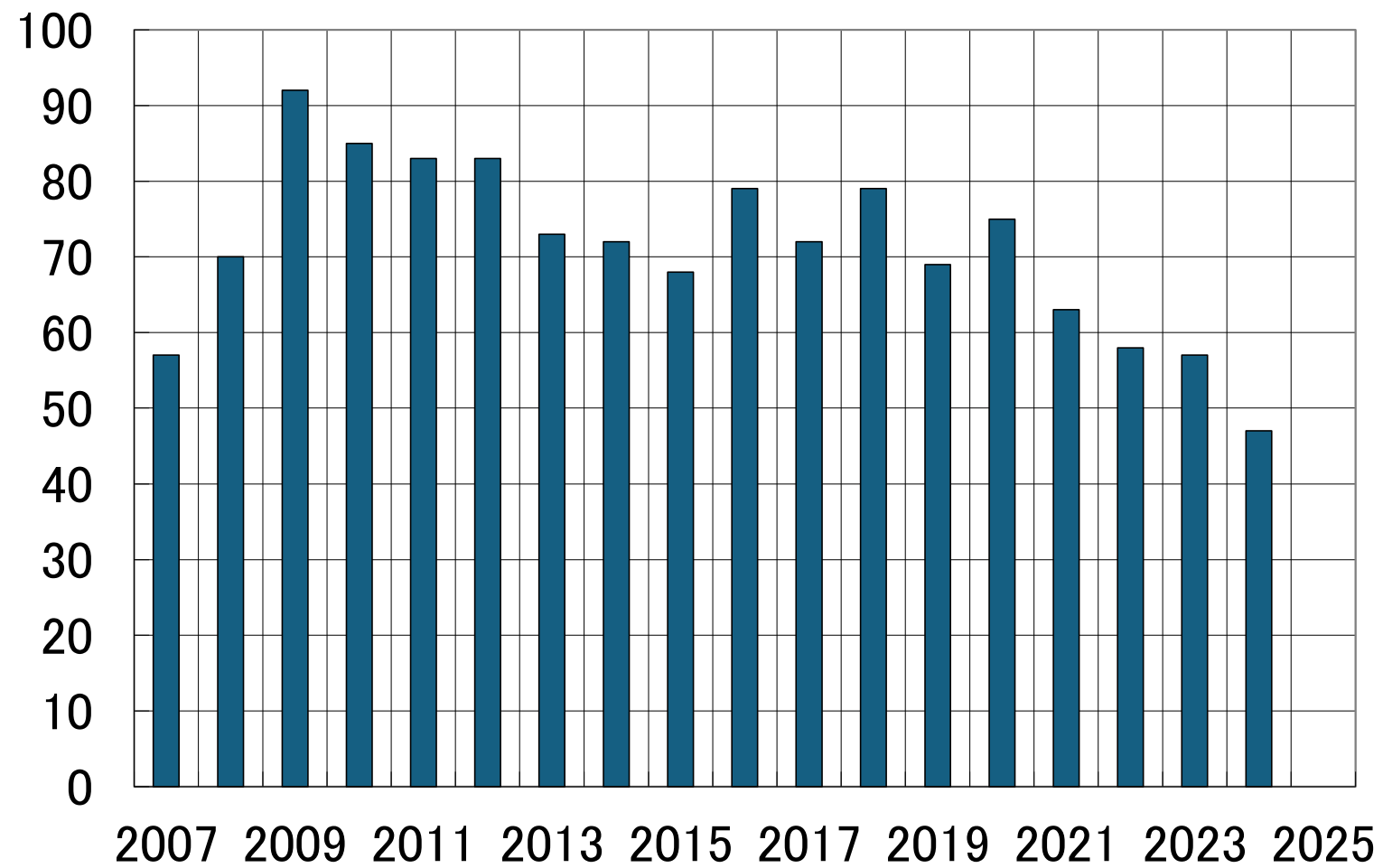


図 林地の水収支





佐倉市の平均気温・降水量・日照時間の経年変化



会員数の推移

**他の生物のための生息環境を保全する
ような悠長なことに、何か意味はある
のか？**

**地球や自然環境を人間社会の「外部」
として扱うことはもはや時代遅れでは
ないのか**

**自ら語らぬ地球の声を聴くためには、
自然にはたらきかけ、その手触り感と
ともに、その声を感じ取ることが必要**

共感の輪を広げる

地球を共感の対象とし、共同体感覚
で地球のことを考える。

個人
／
家族
／
会社
／
地域
／
国

